

## FavorPrep™ NApreserve Reagent

Cat. No. : FNPR1084

容量 : 100ml

本製品は研究用です

ver. 202505

### ● 製品説明

FavorPrep™ NApreserve Reagent は、新鮮な検体中の核酸の分解を防ぐ核酸安定化試薬です。本試薬に検体を浸すことで、急速に分解する検体の使用期間を延長させることが可能です。培養細胞、組織、便、土壌、および溶液が浸透可能なその他の検体を含む様々な検体に対応しています。本試薬は信頼性とコスト効率に優れ、重要な研究や診断用途における核酸の完全性を確保します。

### ● 特長

**多様なサンプルに対応:** 培養細胞、組織、便、土壌  
**優れた核酸安定性:** 多様な温度環境下での DNA および RNA の分解防止  
**柔軟な保存条件:** 短期では室温で保存、長期では-20°C/-80°Cで保存  
**高品質:** 分子生物学ワークフローを妨げることなく、DNA および RNA 抽出を実現

### ● 仕様

**形式/原理:** 核酸保存試薬  
**対応サンプル:** 培養細胞(動物、酵母、細菌)、組織(動物、植物)、便、土壌

### ● 輸送・保管条件

常温にて輸送、室温にて保管

### ● 重要事項

<取扱について>

1. 本試薬は刺激性物質を含みます。取り扱い時には手袋、保護具、白衣を着用してください。
2. 本試薬は室温(15~20°C)で保管してください。

3. 使用前に本試薬に沈殿物がないか確認してください。沈殿物がある場合は、ウォーターバスまたはドライバスにて 37°C で 5 分間温め、穏やかに攪拌して完全に溶解させてください。

<検体適合性について>

1. **凍結検体は使用できません。**最適な結果を得るため、検体は採取後にできるだけ速やかに処理してください。
2. 推奨する検体量を超えて処理しないでください。必要に応じて検体を複数のチューブに分けてください。

### ● 操作手順

<サンプルの安定化>

#### 培養細胞

1. 細胞を遠心チューブに移し、沈殿させます。
  - a. 動物細胞  
最大  $5 \times 10^6$  個の細胞を遠心チューブに移し、 $500 \times g$  で 3 分間遠心します。
  - b. 酵母細胞  
最大  $3 \times 10^8$  個の細胞を遠心チューブに移し、 $5,000 \times g$  で 3 分間遠心します。
  - c. 細菌細胞  
最大  $1 \times 10^9$  個の細胞を遠心チューブに移し、 $5,000 \times g$  で 3 分間遠心します。
2. 上清または培地を取り除きます。
3.  $500 \mu\text{l}$  の FavorPrep™ NApreserve Reagent を加えます。
4. ピペティングにより細胞を完全に懸濁させ、サンプルを試薬に完全に浸します。
5. **サンプル保存**の指示に従い、保存します。

#### 組織

1. 組織切除前にサンプル体積を確認します。
2. 適切な量の FavorPrep™ NApreserve Reagent を遠心チューブに加えます。
3. 組織を適切に切断します。
  - a. 動物組織  
小片( $\leq 0.5\text{cm}$ )に切断します。

b. 植物組織

蠟質被膜などの天然バリアを除去します。

**重要:** サンプルの厚さは 0.5cm 未満にすること。このサイズを超える場合、本試薬が内部に浸透せずサンプルが劣化します。

4. 切断した組織を FavorPrep™ NApreserve Reagent が入った遠心チューブに移します。  
**重要:** 切除後は直ちに組織を浸漬すること。
5. FavorPrep™ NApreserve Reagent を含むサンプルを 4℃で 30 分間保管します。
6. **サンプル保存**の指示に従います。

**土壌/便**

1. 適切な量の土壌または便を秤量し、検体の体積を判断します。
2. FavorPrep™ NApreserve Reagent を検体の 4 倍量加えます。チューブを逆さにして検体を試薬に完全に浸します。
3. **サンプル保存**の指示に従い、保存します。

● **サンプル保存**

保存温度	安定化時間
18~37℃	24 時間
2~8℃	1~4 週間
-20℃/-80℃	長期間

メモ: 検体および環境条件により、短期間であれば冷蔵なしでも RNA の安定性を維持し、著しい分解は生じません。ただし、より良好な保存のため、上記に従い、冷蔵保存することを推奨します。

● **保存したサンプルからの核酸抽出**

**培養細胞**

1. FavorPrep™ NApreserve Reagent を含むサンプルに 1 倍量のヌクレアーゼフリーPBS を加えます。
2. サンプルを遠心分離します。
  - a. 動物細胞  
1,000 × g で 3 分間遠心します

b. 酵母細胞

5,000 × g で 3 分間遠心します

c. 細菌細胞

5,000 × g で 3 分間遠心します

3. 上清を慎重に除去します。

4. <オプション>

DNA 抽出の場合、サンプル体積の 2 倍量のヌクレアーゼフリーPBS を加え、遠心分離して細胞を沈殿させ、上清を除去します。

5. 各核酸抽出プロトコルに従い、直ちに溶解バッファーを加えます。

**組織**

1. 滅菌済みのピンセットでサンプルを取り出します。ペーパータオルで軽く叩き、余分な溶液を除去します。
2. 溶解バッファーに移し、各核酸抽出キットのプロトコルに従い、直ちに組織をホモジナイズまたは粉碎します。

**土壌/便**

1. 12,000 × g で 3 分間遠心分離し、FavorPrep™ NApreserve Reagent からサンプルを回収します。
2. 上清を除去します。各核酸抽出キットのプロトコルに従い、直ちに溶解バッファーを加えます。